



昭和小だより



「暑さ寒さも彼岸まで」というように、明け方や夜の気温がずいぶん心地よく感じられる季節になりました。周りの自然に目を向けると知らぬ間に、真っ赤な彼岸花（曼珠沙華）や可憐なコスモスが咲き始めていました。毎年、自然の不思議さに驚かされます。いよいよ「スポーツの秋」「芸術の秋」「食欲の秋」「読書の秋」本番です。それぞれのお子さんが、自分の特技を生かしていろいろなことにチャレンジし、新しい可能性を発見できるよう、励ましてまいります。

実り多き秋にしましょう

今、子ども達は、綾歌郡教育文化祭や陸上記録会、読書ビンゴなど様々なことにチャレンジをしています。日々の学習にも、頑張って取り組んでいます。「勉強が苦手だけど運動が得意」「字を書くことに自信がないけど絵を描くのが好き」「運動が苦手だけど読書が好き」といったように、私自身もそうですが、人間には、苦手なことや得意なことがあります。実り多き秋にするために失敗を恐れず、様々なことにチャレンジをしてほしいです。



【陸上練習に励む5・6年生】



【先生がおすすめる本の紹介】



【絵画の作品作りに取り組む児童】

子どものよりよい成長を促すために

先日、就学時健康診断がありました。就学時健康診断は、令和8年度入学を予定している園児を対象に、健康診断等を行うものです。園児が健康診断を受けている時間に、保護者の方には家庭教育学級を実施しました。

今年度は、香川県教育委員会事務局 生涯学習・文化財課 先生に御講演をいただきました。演題は「望ましい生活習慣づくりの大切さと子どもの自立を促していくかかわり方について」です。

先生は講話の中で、入学前に身に付けておきたい望ましい生活習慣について話をしてくださいました。例えば、睡眠不足がもたらす影響について、睡眠不足になると、感情をコントロールする力の低下や人の気持ちを理解す能力の低下をもたらすこと。また、早寝・早起き・朝ごはんの大切さと身体を動かすことの必要性について。そして、子どもの自立を育むキーワードとして、「愛してほしい」「見てほしい」「認めてほしい」この3つを満たすと子どもの中に「安心感」と「信頼感」が生まれることを教えていただきました。

私自身、1女2男の3人の子を持つ親です。長女・長男は成人し次男は高校3年生です。先生の講演を聴いて、反省するばかりでした。仕事の忙しさにかまけて、子ども達には「はやくして」「できるやろ」「やっといて」など、「子ども任せで自分勝手な言葉かけだったなあ」と「その言葉に愛はあったのか？」と自問自答し後悔をするばかりです。「子どもに向き合っていたつもり」の自己満足だったように思います。

最後に先生は、「子どもを信じて待つ勇気をもとう！」と講演を締めくくりました。「子どもを信じて待つ勇気」は、分かっていることなのですが、私達にとって大切な言葉です。